

令和5年度 中学校国語科授業づくり研修会

全国学力・学習状況調査を活用した授業づくりについて



1

全国学力・学習状況調査の結果から見られる 本県の課題を踏まえた授業づくり

「書くこと」 → レポートを書く

「読むこと」 → 古典を読む

※本資料は、「令和5年度 授業アイディア例」を参考にしています。

2

授業アイデア例 | レポートを書く (第2学年)

学習の流れ

- ①学習の見通しをもつ。
- ②後半のまとめりに付ける見出しを考える。
- ③②で考えた「分けたところ」「付けた見出し」について、グループで話し合う。
- ④解読の仕方について、具体的な例を挙げてどのように説明するかを考える。
- ⑤④で各自が考えたものを基に、グループで話し合う。

3

授業アイデア例 | レポートを書く

① 学習の見通しをもつ。



レポートなどを書くときには、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することが大切です。今日は、[作成中のレポートの例]をもとに、見出しの付け方や具体例をどのように示すと自分の考えが伝わる文章になるのかを考えてみましょう。

学習指導要領における内容

(第2学年) 知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項 ア
意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

(第1学年) 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと ウ
根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

「判じ絵」について

山田 光一

1. はじめに

学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもったため、詳しく調べることにした。

2. 調査方法 学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「推し量って考える」ことが必要になる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。



【図1】ザル

5

授業アイデア例1 レポートを書く

② 後半のまとまりに付ける見出しを考える。



「山田さんは、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容と合う見出しを付けることにしました。どこで分けるとよいでしょう。後半のまとまりに付ける見出しも考えてみましょう。」

③ ②で考えた「分けたところ」「付けた見出し」について、グループで話し合う。

- ・なぜそこで分けたのか
- ・なぜそのような見出しを付けたのか **理由を説明することが大切。**

6

「判じ絵」について

山田 光一

1. はじめに

学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的などのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもったため、詳しく調べることにした。

2. 調査方法 学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア)ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものと異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「推し量って考える」ことが必要になる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。



【図1】ザル

7

3. 調査結果

(1)「判じ絵」とは何か

「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものと異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「推し量って考える」ことが必要になる。【図1】ザル言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものなのである。



【図1】ザル

(2) 小見出し

「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

(正答例)・「判じ絵」の歴史
・「判じ絵」の起源と広がり

(2)の内容に共通する要素を抽出し、見出しを考えて書く。

8

～「具体と抽象という概念」を理解する～

- ・ 具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要。
- ・ 例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを、身の回りの事例と結び付けながら捉えることができるように指導することが大切。

9

～「具体と抽象という概念」を理解する～



「具体」と「抽象」は、対義語の関係になっています。それぞれの言葉の意味を国語辞典で調べてみましょう。その上で、具体と抽象の関係が説明できそうなものを身近な情報の中から探して、その関係を説明してみましょう。

〔数学のノート〕

空間図形

正多面体

正四面体、正六面体（立方体）、
正八面体、正十二面体、正二十面体

例えば、空間図形には「正多面体」があります。「正多面体」の具体的な例として、「正四面体」や「正六面体」があります。

10

～「具体と抽象という概念」を理解する～

〔給食の献立表〕

9月の献立				
日	主食	主菜	副菜	その他
4日 (月)	ごはん	焼き魚(サバ の塩焼き)	おひたし	すまし汁 牛乳
5日 (火)	コッペパン	コロッケ	サラダ	豆スープ 牛乳

今日の主菜は、「焼き魚」です。「焼き魚」と「サバの塩焼き」を比べてみると、「焼き魚」は抽象的な表現で、「サバの塩焼き」は具体的な表現と言えるのではないのでしょうか。

「焼き魚」と「主菜」を比べてみると、「焼き魚」が具体的な表現で、「主菜」が抽象的な表現と言えそうです。比べる対象によって、何が具体的で何が抽象的になるのかが変わりますね。

11

～「具体と抽象という概念」を理解する～

〔今年度の決意の言葉〕

最上級生である3年生になりました。私は、文武両道を目指に掲げ、中学校生活に悔いを残さぬよう、全力を尽くしたいと思います。

学習面では、家庭学習を充実させていきたいと思います。これまであまり家庭学習をしてこなかったため、隙間の時間を活用し、毎日30分であっても机に向かい、2年生までに学習したことを計画的に復習していきたいと思います。

また、部活動では、夏の大会が中学校生活最後の大会になります。最後まで自分とチームの力の向上を目指して練習に取り組みたいです。私はサッカー部に所属しています。これまで仲間とともに励まし合いながら練習に取り組んで

自分が書いた(今年度の決意の言葉)を見ると、1段落目の「文武両道」は抽象的な表現で、2段落目と3段落目で述べている、学習面も部活動も頑張りたいという部分は具体的な表現になっていると思います。自分の書いた文章の中にも、具体と抽象の関係がありました。

こうして見ると、詳しく伝えるのが具体的な表現で、簡潔にまとめて伝えるのが抽象的な表現とも言えそうですね。状況や必要に応じて、具体的な表現と抽象的な表現を使い分けたり、組み合わせたりすると、伝えたいことがうまく伝わります。



12

④ 解説の仕方について、具体的な例を挙げてどのように説明するかを考える。



山田さんは、「■『判じ絵』の解説の面白さ」に【図3】としてもう一つ具体例を示して、解説の仕方を説明しようとしています。皆さんは、どのように書きますか。〈候補〉のA、Bから一つ選び（どちらの〈候補〉を選んでもかまいません。）、【図3】は、」に続けて、【図2】の説明の仕方を参考にして書いてみましょう。

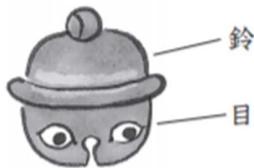
⑤ ④で各自が考えたものを基に、グループで話し合う。

3. 調査結果

(略)

■「判じ絵」の解説の面白さ

「判じ絵」の解説の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。



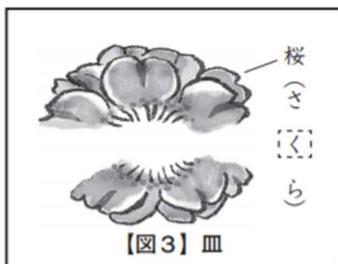
【図2】 スズメ

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解説すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】

【図3】は、

〈候補〉 A



【図3】 皿

B

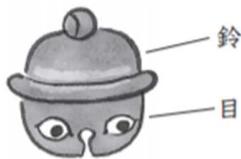


【図3】 ナス

3. 調査結果

■「判じ絵」の解説の面白さ

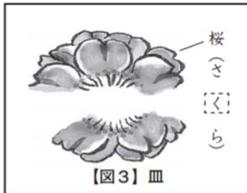
「判じ絵」の解説の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。



【図2】 スズメ

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。
描かれているものを組み合わせて解説すると、
鳥の「スズメ」という意味になる。

A



【図3】 皿

(正答例)

・A (【図3】は、)真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解説すると、食事で使う「皿」という意味になる。

B



【図3】 ナス

・B (【図3】は、)「砂」という漢字が逆さまに書かれているので、漢字の読み方も逆にすると、野菜の「ナス」という意味になる。

伝えたいことが、「『判じ絵』の解説の面白さ」なので、
具体例として「判じ絵」を示して、その「判じ絵」の解説
の仕方を書くことが、「**根拠を明確**」にすること。

15

授業アイデア例1

レポートを書く

「根拠を明確にして書く」とはどのようなことなのかが理解できるように指導することが大切。

⑥ 学習を振り返る。

- ◎ 自分の考えが伝わる文章にするために
具体例を示す際の留意点
- ① 伝えたい自分の考えを明らかにする
・題材について考えたことを書き出してみよう。
・考えたことの中から伝えたいことを精選する。
- ② 考えを支える根拠となる具体例を選ぶ
・考えとのつながりが明確な具体例を選ぶ。
・示す具体例の数や順番を検討する。
- ③ 文章の中に自分の考えと根拠を書く
・自分の考えと、考えを支える具体例を書く。
・示した具体例から、なぜその考えが導き出せるのかが分かるように説明を書く。

16

学習の流れ

- ①学習の見通しをもつ。
- ②グループで、「竹取物語」について知っていることを出し合い、出された知識をホワイトボードに整理する。
- ③グループごとにまとめたホワイトボードを基に、「竹取物語」の作品の特徴(成立時代、作品の種類、あらすじ等)を全体で確認する。
- ④教科書に掲載されている「竹取物語」の冒頭の部分の原文と現代語訳を音読し、古文の特徴を捉える。
- ⑤「歴史的仮名遣い」などの知識を確認し、もう一度、原文を音読する。

- ⑥教科書の「竹取物語」の冒頭の原文と現代語訳を音読し、前時の学習を振り返る。
- ⑦各自で、星新一訳「竹取物語」の冒頭に当たる部分を読み、面白さや工夫されている点についてグループで交流する。
- ⑧⑦で交流した面白さや工夫されている点を具体的に取り上げて黄色の付箋に書き、古典の原文の対応する部分を探し、青色の付箋に書く。
- ⑨グループで、⑧で書いた付箋を整理しながら、気付いたことについて交流する。
- ⑩⑨で整理した付箋を見せ合いながら、全体で交流する。
- ⑪学習を振り返る。
- ⑫読みたい場面を選び、星新一訳の「竹取物語」と原文とを読み比べる。
- ⑬読み比べてみて面白く感じたことや工夫されていると感じたことについて、感想を交流する。

学習指導要領における内容

(第1学年) 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項 ア
音読に必要な文語の決まりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。

(第1学年) 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと エ
文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。



(知識及び技能)に示されている事項は、国語で理解したり表現したりする様々な場面で生きて働くものとして身に付けるために、(思考力、判断力、表現力等)に示されている事項の指導を通して指導することを基本としている。

(知識及び技能)と(思考力、判断力、表現力等)は、互いに関連し合いながら育成される必要がある。

第1時 ① 学習の見通しをもつ。



古典の中には、絵本や映画などで幅広い世代に親しまれている作品がたくさんあります。その一つである、「竹取物語」を読んでみましょう。まず、「竹取物語」について、皆さんが知っていることを基に、どのような作品なのかを確認しましょう。

② グループで、「竹取物語」について知っていることを出し合い、出された知識をホワイトボードに整理する。

③ グループごとにまとめたホワイトボードを基に、「竹取物語」の作品の特徴(成立時代、作品の種類、あらすじ等)を全体で確認する。

④ 教科書に掲載されている「竹取物語」の冒頭の部分の原文と現代語訳を音読し、古文の特徴を捉える。



小学校で学習したことを思い出しながら、「竹取物語」の冒頭の部分の原文と現代語訳を音読しましょう。そして、思い出したことや気付いたことについて交流しましょう。

原文には、「いふもの」のように、書いてあるとおりには読まないところがあるので、注意して読まなければなりませんね。文末も「けり」や「たり」など、現代語訳とは違っています。

小学校で古典の学習をしたとき、現代とは違う「昔の仮名遣い」が出てきたことを思い出しました。現代語訳の「不思議に思って」が原文では「あやしがりて」になっているように、現代語とは違う意味で使われていた言葉もあるようですね。

「いとうつくしうてゐたり」は、現代仮名遣いにすると、「いとうつくしゅうていたり」になるのですね。「うつくしうて」が「かわいらしい様子で」になるならば、現代語の「美しい」は、昔はなんと言ったのでしょうか。

⑤ 「歴史的仮名遣い」などの知識を確認し、もう一度、原文を音読する。

ポイント

小学校での学習を想起させながら、「歴史的仮名遣い」や「現代仮名遣い」、「現代語訳」などの言葉を使って、自分が気付いたことや理解したことを説明できるようにしていくことが大切。

(参考)

小学校 第5学年及び第6学年

(知識及び技能) (3) 我が国の言語文化に関する事項

ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。

イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔のものの見方や感じ方を知ること。

小学校で学習した知識や技能を、中学校の学習の中で目的や状況に応じて試行錯誤しながら使うことにより、生きて働くものとして習得される。

第2時 ⑥ 教科書の「竹取物語」の冒頭の原文と現代語訳を音読し、前時の学習を振り返る。



古典の楽しみ方として、現代語訳を読むことや、映画や漫画を手掛かりにすることも考えられます。今日は、「竹取物語」の冒頭の部分を、星新一さんが現代語で書いた「竹取物語」で読んでみます。面白く感じたことや工夫されていると考えたことについて、交流してみましょう。

⑦ 各自で、星新一訳「竹取物語」の冒頭に当たる部分を読み、面白さや工夫されている点についてグループで交流する。

⑧ ⑦で交流した面白さや工夫されている点を具体的に挙げて黄色の付箋に書き、古典の原文の対応する部分を探し、青色の付箋に書く。

まことに、かわいらしい。	手なれた仕事だ。	竹については、くわしいのだ。	もっともらしく名乗ったりする	その部分を、ていねいに割ってみる。	笠、竿、箆、籠、筆、箱、筒、箸。	筍は料理用。	野や山に出かけて	竹取りじいさん
いとつつくしうてゐたり			なむいひける	それを見れば??	よろづのこと		野山にまじりて	竹取の翁

⑨ グループで、⑧で書いた付箋を整理しながら、気付いたことについて交流する。

星新一訳では、「まじりて」を「出かけて」にするなど、教科書の現代語訳よりも、私たちが普段使っている言葉に近い言葉を使っていますね。だから、分かりやすく感じるのはですね。

○分かりやすい言葉で書かれている

筒は料理用。	野や山に出かけて	竹取りじいさん
	野山にまじりて	竹取の翁

⑨ グループで、⑧で書いた付箋を整理しながら、気付いたことについて交流する。

星新一訳には、「よろづのこと」を「笠、竿、箒、籠、筆、箱、筒、箸。」と書くなど、古典の言葉を詳しく書き換えているところがあります。箒も籠も竹で作るなんて、さすが「竹取の翁」と呼ばれるだけのことはあると思いました。「すだれ、ふるい、かんざし」も漢字で書くと、「たけかむり」なのですね。どのような漢字なのか調べてみたくなりました。

○説明が詳しい

その部分を、ていねいに割ってみる。	笠、竿、箒、籠、筆、箱、筒、箸。
それを見れば??	よろづのこと

⑨ グループで、⑧で書いた付箋を整理しながら、気付いたことについて交流する。

原文にはない「手なれた仕事だ。」の一文があることで、翁の手つきが目に浮かびますね。「その部分を、ていねいに割ってみる。」も原文には書かれていないことではないでしょうか。原文の「それを見れば」の前に翁がしたことを補って書いているのだと思います。

教科書の現代語訳の「とてもかわいらしい様子で座っている」でも、「三寸ばかりなる人」の様子は分かりますが、星新一訳の「まことに、かわいらしい。」だと、思わずつぶやいたような感じがして、かわいらしさが強調されていると思います。「いと」は、「まことに」と訳すこともできるのですね。

○作者の見方などが書かれている

まことに、かわいらしい。

手なれた仕事だ。

竹については、くわしいのだ。

もつともらしく名乗ったりする

いとつくしうてゐたり

なむいひける

⑩ ⑨で整理した付箋を見せ合いながら、全体で交流する。

⑪ 学習を振り返る。

今日の学習を振り返り、星新一訳と原文を読み比べてみて面白かったことや、さらに読んでみたいと思った場面などについて書いてみましょう。



原文の意味が分かるだけでなく、「竹取の翁」やこの場面の様子についていろいろ想像できるのが面白かったです。例えば、「よろづのこと」に当たるものを「たけかんむり」の漢字で列挙していて、翁は「たけかんむり」のものならば何でも作れる人なのかもしれないと、想像が広がりました。前の時間にあらすじを確認したときに出てきた、五人の貴公子の求婚の場面で、それぞれの人物がどのように描かれているのか、読んでみたくなりました。

星新一訳の「竹取物語」を読んで、現代語訳の仕方が一通りではないことが分かりました。「いと」が「とても」という意味であることは知っていましたが、「まことに」の方が、この場面にはぴったりだと感じました。私は、かぐや姫が月に帰る場面を絵本でしか読んだことがないので、原文と星新一訳で読んでみたいです。

学力向上のための授業改善



改善のポイント

- ①基礎・基本を定着させるため、**既習事項を活用する場面**を設定する。
- ②学びに対する**興味・関心を高める工夫**をする。(主体性を育む。)
 - 日常生活から題材を探す等、実生活と関連させる。
 - どの指導事項の定着に課題があるのかを明らかにして、指導計画等に反映させる。
 - ICTの利用等により、考えを共有させる。
 - 分かりやすい板書や学びの蓄積となるノートの指導の工夫をする。
- ③**言葉による見方・考え方**を意識した授業展開を考える。
- ④指導事項が身に付くような**効果的な言語活動**を設定する。
- ⑤**振り返り**を重視する。
 - めあてとの関連を意識した、書くことによる振り返りをさせる。
 - 自身の授業を振り返り、次の指導に生かす。
 - 「努力を要する」状況の生徒への手立てを考える。

29

学習の見通し・振り返りについて



【見通し】のポイント

「何を学ぶのか」「なぜ学ぶのか」「どのように学ぶのか」を、生徒が理解することが大切

- ※ **授業の始めには、めあてを提示し、問題解決への意欲を高めよう。**

【振り返り】のポイント

- ・自己評価(生徒自身の言葉で記述)
- ・「見通し」と対に

- ※ **授業(単元)の終わりには、めあてに対応した振り返りの時間を確保しよう。**
生徒の「振り返り」を吟味し、**教師自身の指導を振り返り、次時の指導に生かそう。** → **【指導と評価の一体化】**

学力向上に向けた授業力の改善・充実を図るためには、「見通し・振り返り」活動が大変有効である！

30